

岡山畜産便り

2024 4



令和5年度 公益財団法人中国四国酪農大学校第58期生卒業記念

も く じ

〔酪大だより〕

- 第58期生が卒業しました
(公財)中国四国酪農大学校 1

〔トピック〕

- 令和5年度和牛シンポジウム開催
(一社)岡山県畜産協会 経営支援部 2

〔県民局だより〕

- 新商品！蒜山ジャージー牛乳の誕生ストーリー
美作県民局畜産第二班 3

〔技術のページ〕

- 硝酸性窒素等を除去するためには？
農林水産総合センター畜産研究所 5

〔家保のページ〕

- 岡山家畜保健衛生所家畜保健衛生課の業績紹介
岡山家畜保健衛生所 7

〔センムのヒトリゴト〕

- 一寸先は明るいかもしれない
(一社)岡山県畜産協会 中塚 陽二郎 9

〔人事関係〕

- 岡山県畜産関係者名簿 10
岡山県農業共済組合 12
全農岡山県本部畜産部 13
おかやま酪農業協同組合 14
一般社団法人岡山県畜産協会 15
岡山県畜産関係各種協議会 16

動物用 カルシウム剤 ダービー

ダービーは貝化石の
微粉末であり貝化石には
カルシウムや各種ミネラルが
豊富に含まれています。
カルシウムの供給源として
搾乳牛や子牛にも
最適です。



おいしいよ〜♪



JYUCHIKU Co., Ltd. 株式会社ジュウチク

岡山市北区今保 99 番地 3

Tel.086-259-1230 Fax.086-259-1231

Email : jyuchiku@festa.ocn.ne.jp

健康な仔牛づくりへの
一歩目はこれから！



弊社では、四十年余り培ってきた醗酵技術を用
いることで、乳酸菌やその他の菌類を使用した良
質な醗酵飼料を、肉用・乳用を問わず、全ての
ステージの牛に対して提供しております。

また、弊社ではこれらの技術を利用したオーダー
品の設計や生産、飼料米の粉碎などの原料の
加工も承っております。

原料を持込での加工依頼や、御要望の数量の
多寡を問わず、まずはお気軽に御相談下さい。

醗酵飼料のパイオニア

フタバ飼料株式会社

〒709-0841 岡山県岡山市東区瀬戸町万富1057-1

TEL 086-953-0832 FAX 086-953-1870

E-mail : futabashiryu.co.jp

〔酪大だより〕

第58期生が卒業しました

公益財団法人 中国四国酪農大学校

本校は、『経営感覚と確かな技術を持った人材の育成』『酪農を通じて地域に貢献できる人材の育成』『社会人としての基礎力を備えた人材の育成』という3つの教育理念のもと、卒業後即戦力として地域社会に貢献できる実践的な知識と技術を身につけた人材育成を行ってきており、この春、第58期生18名（男子6名、女子12名）が酪農大学校を卒業しました。今年も卒業生、在校生、教職員に加え保護者の方や多くの来賓の皆様にも参列していただき卒業生を見送ることができました。就農・就職状況は、酪農後継者が2名、肉用牛後継者が1名、雇用就農が12名（うち酪農場8名、肉用牛農場3名、農業1名）、削蹄師が1名、その他が2名となっています。このうち6名が岡山県内で就業しており、今後の活躍を期待しています。



卒業式の様子

58期生は大人しい学生が多かったですが、真面目にコツコツ頑張ることが出来、作業を確実にこなそうとする姿勢が見られました。また少ない人数ながらも決められた時間内に作業が終わるようにひたむきに

取り組む姿が印象的でした。女子の人数が男子の倍いたということもあって、何をするにも女子が先陣を切って行動していました。近年、女性の社会進出が後押しされていますが今後も様々なことに積極的に取り組み「酪農女子」として活躍して欲しいと願っています。



ソフトボール練習

2年間の学生生活は楽しいことばかりではなく、つらいことや苦しいこともあったことでしょう。1年次はコロナ禍にあり主要な行事が中止になったり、行動が制限されるなど息苦しい1年であったと思います。また毎日の早朝からの作業は体力的にも精神的にも大変であったことと思います。しかし最後まで諦めることなくやり通し無事に卒業まで至れたことは今後社会人として自信をもって働いていく上で貴重な経験です。それでも初めて社会に出ていき働くことの厳しさに直面し挫けそうになることもあるかもしれません。その時は一人で抱え込まず2年間を共にした仲間たちと支えあいながら厳しい情勢が続く畜産業界を乗り切りたいと思います。

〔トピック〕

令和5年度和牛シンポジウム開催

一般社団法人 岡山県畜産協会 経営支援部

令和6年3月21日（木）グリーンヒルズ津山リージョンセンターにて、「みんなで考えよう！基本にたちかえる和牛繁殖管理」をテーマに和牛シンポジウムを開催しました。

子牛価格の低下や飼料、肥料、燃料など生産資材価格の高止まりで経営環境が厳しい状況において、和牛飼育現場に根ざしたテーマによるシンポジウムを開催することにより、和牛農家の生産意欲を高めるとともに、繁殖及び哺育育成技術の向上による生産性の高い農家を育成し、和牛経営の安定的発展に資することを目的として実施しました。



開会挨拶する柴田畜産協会会長

なお、本シンポジウムは（一社）岡山県畜産協会をはじめ全農等県下畜産6団体で構成する実行委員会の主催及び岡山県、津山市の後援を得て、21回目を迎えました。

今回の参加者は和牛繁殖農家、JA等関係団体、行政併せて約150名で、次のテーマをもとにパネリスト（繁殖農家5名）と助言者によるパネルディスカッションを行い、参加者からの質問を受ける等、会場と一体となって進めました。

①発情発見の確認をどのようにしているか、②母牛の妊娠期間中（胎児期）の管理をどうしているか、③良い子牛を生むために分

娩をどのようにやっているか、④分娩後の早期で良好な発情回帰となるように何を行っているか、⑤経営面から考えた稲WCSの活用について等で、活発な意見交換がなされました。



パネルディスカッションの様子

参加者からは、「飼育体系によってさまざまな飼い方があったのが参考になった」「パネリストさんの意見は今後の飼養方法の参考になった」等のコメントもありました。

今年度は、久しぶりに「和牛弁当」を参加者に食べていただきました。津山和牛肉を利用した弁当で、旨味があり、やわらかくておいしいと大変好評でした。

また、屋外では、「つやま和牛干し肉コーナー」が設けられ、干し肉を鉄板で焼いて、参加者に試食してもらいました。こちらも噛めば噛むほど旨味が増すと大変好評でした。

シンポジウムを終えて

子牛価格は回復傾向にあるものの、まだまだ低価格で推移しており、いかにコストを削減して繁殖経営を維持するかが大きな課題であることから、今回のシンポジウムの知見を参考にして、多くの子牛生産のための繁殖性の向上、稲WCS等の粗飼料生産の拡大と利用による経費削減を実現していかなければと考えています。

〔県民局だより〕

新商品！ 蒜山ジャージー牛乳の誕生ヒストリー

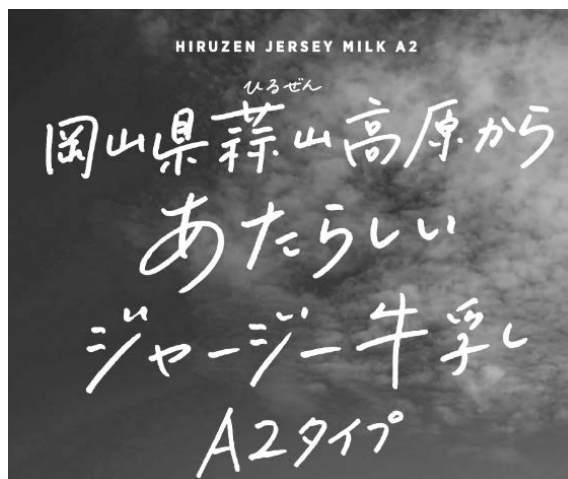
岡山県美作県民局畜産第二班

1 はじめに

ジャージー牛が岡山県蒜山地域に導入されてから70年になります。今では、蒜山地域は全国有数のジャージー酪農地帯ですが、当初は、ほんの数頭のジャージー牛の導入からはじまったそうです。当時の本誌への投稿に、現在と同様に酪農情勢が厳しく、乳価が急落し、酪農の危機と呼ばれるような状況の中、ジャージー牛の導入が、酪農界に一石を投じる喜ばしい出来事だったと書かれていました。

先人たちの思いを紡いでブランドを確立してきた蒜山ジャージー牛乳。ジャージー牛乳の美味しさをもっと多くの人に味わってほしい。そして、ジャージー酪農を70年間受け継いでこられた酪農家の皆さんの想いやジャージー牛乳の価値を広く伝えたい。このような思いから、生産者、蒜山酪農農業協同組合、真庭市、岡山県などの関係機関が協力して、蒜山ジャージー牛乳の新商品「A2 ミルク(※)」の開発に取り組みました。

(※牛乳の中に含まれるたんぱく質であるβカゼインがすべてA2タイプの牛乳のこと)



新商品のチラシより

2 新商品開発までの道のり

蒜山酪農農業協同組合では、昭和31年にジャージー牛乳の販売をスタートしました。過去には、商品が良ければ売れるという時代がありましたが、それだけでは通用しない時代になってきました。そこで、食品のマーケティングに携わる専門家からの助言を得ながら、世界的に需要が伸び、日本でも注目され始めていた「A2 ミルク」に着目し、売りたいものではなく、より消費者のニーズに寄り添う商品開発を目指しました。

商品の特徴や魅力を分かりやすい言葉で表すために、データ分析や市場調査を行って、商品コンセプトやネーミングの検討を重ね、消費者へのアンケート調査で聞き取った「濃いのに後味がすっきりしている」「薫りが良い」などの声を反映しました。

「物言わぬセールスマン」であるパッケージには、ジャージー牛のイラストなどを用いて、商品の特徴と魅力を一目で伝える工夫を凝らし、想いをぎゅっと詰め込みました。



180ml

500ml

1000ml

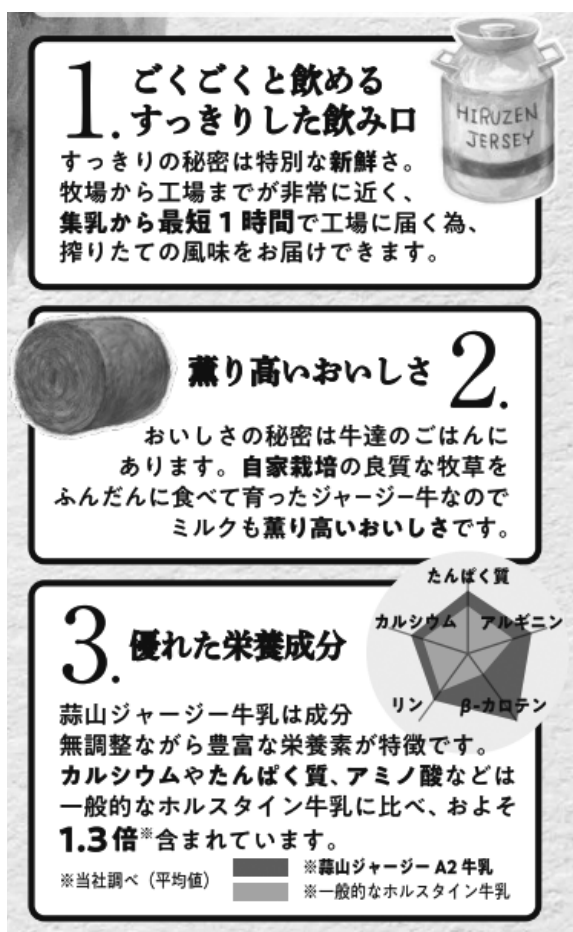
新商品のパッケージ



消費者の声を活かした商品名

さらに、A2 ミルクの生産はA2 遺伝子を持つ牛から搾乳しなければなりません。そのためには、生産体制の整備が必要で、指定農場となった2 牧場と地域のジャージー牧場の協力により、A2 遺伝子を持つ牛を指定農場に集約することができました。

こうして完成したのが、新商品「蒜山高原のすっきり美味しいジャージー牛乳A2」です。消費者のアンケート調査などを通して改めて見出した、蒜山ジャージー牛乳の濃厚さだけではない魅力を、商品パッケージの側面に載せました。



商品パッケージの側面

商品完成後は、営業力強化のため模擬商談などの営業活動の準備を行った上で、商談やテスト販売に力を入れました。

東京でのテスト販売では、たくさんの人から「美味しくて飲みやすい」「パッケージが良い」など、高評価をいただきました。



テスト販売の様子

3 おわりに

こうして、この4月からA2 ミルクの発売となりました。スーパー等で見かけた際には、是非お手にとってみてください。

最後に、70年前に本誌へ投稿された言葉をご紹介します。

「凡そ重要事業の達成への道には楽しい時もあるし、苦しい時もある事は世の常である。苦難の時を何とかして克服する所に健実なる基礎が樹立せられる事は古今の鉄則である。」

今でこそ、情勢は厳しい状況ではありますが、当時の生産者や酪農を支えていた関係者などの思いを胸に刻んで、先人たちのつないできたジャージー牛乳の魅力が1人でも多くの人々に伝わるように、今後も蒜山ジャージーのブランド力強化に取り組んでいきます。

硝酸性窒素等を除去するためには？

岡山県農林水産総合センター 畜産研究所 環境研究グループ

平成13年に水質汚濁防止法の健康項目（有害物質）に「アンモニア、アンモニウム化合物、亜硝酸化合物及び硝酸化合物」（硝酸性窒素等＝アンモニア性窒素×0.4＋亜硝酸性窒素＋硝酸性窒素）が追加されました。

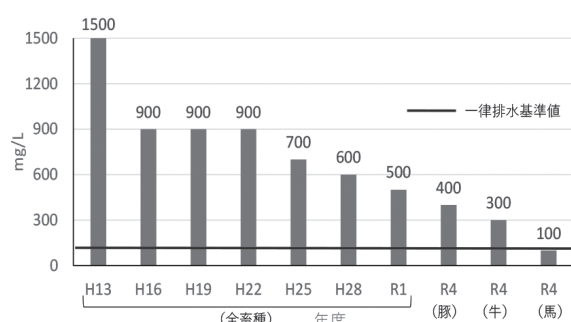


図1 硝酸性窒素等の暫定排水基準値

窒素濃度の高い畜産農業においては暫定基準が設けられ、現在は豚で400mg/L、牛で300mg/L（令和7年6月末まで）となっています（図1）。しかし、3年ごとに見直しがあり、近い将来一律排水基準100mg/Lになると考えられ、その対策が求められています。

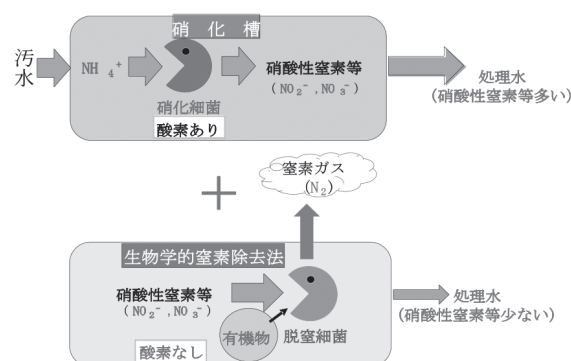


図2 生物学的窒素除去法

浄化処理では硝化細菌によりアンモニア性窒素が硝酸性窒素となりますが、この硝酸性窒素を窒素ガスとして大気中に放出してくれる脱窒菌をうまく使えば窒素が除去

（生物学的窒素除去法）できます（図2）。そこで、既存の浄化処理施設に導入できる対策について、まとめました。

1 間欠曝気法

曝気槽において数時間のサイクルで曝気－停止を繰り返す方法です。曝気時にアンモニア性窒素の硝化が進行し、停止時には曝気槽内の酸素が低下して硝化した硝酸性窒素が窒素ガスとして大気中へ放出されます（図3）。

この方法は、既存の施設に取り入れやすいですが、曝気時間が短くなるため汚濁成分が十分分解されなくなる可能性があります。

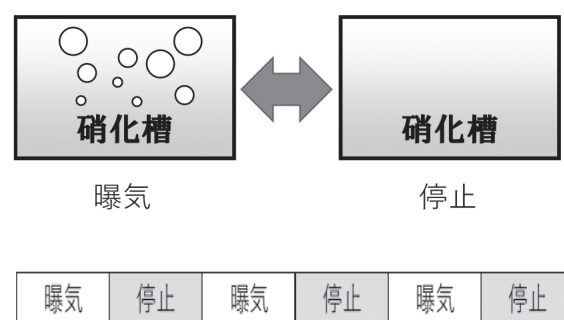


図3 間欠曝気のサイクル

2 循環式硝化脱窒法

曝気を行わない槽（脱窒槽）と曝気を行う硝化槽とに分け、硝化槽の液を前段にある脱窒槽にポンプにより循環させ、脱窒する方法です（図4）。

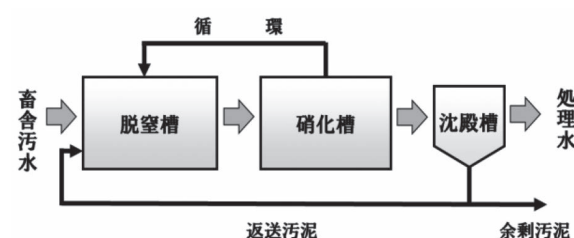


図4 循環式硝化脱窒法

脱窒槽内は有機性汚濁物質が多く酸素がないので、脱窒が起こります。この方法では新たに脱窒槽が必要となります。

3 メタノール添加法

メタノールは汚水中の有機物（BOD）と同様な働きを行うので、脱窒槽に添加して無酸素状態とすることで脱窒を促します。

硝化槽の後段に脱窒槽を設け、メタノールを硝酸性窒素に対し約2.5倍量添加するよう設定します。ただし、この方法では、メタノールが残存し、処理水中のBODが増加してしまう可能性があることから、後段に再曝気槽を設け、残存BODを処理する方法がとられます。

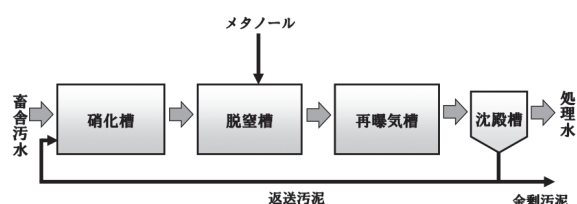


図5 メタノール添加法

4 生物膜法による窒素除去促進法

汚水の浄化に関与している微生物を、担体（ろ材）に膜状に付着させて処理する方法があり、これを生物膜法と呼びます。特徴として生物膜表面で硝化、内部で脱窒を行うので窒素除去効果が高いといわれています。

当研究所では、担体に炭素繊維を利用（炭素繊維リアクター）した窒素除去促進法を農研機構畜産研究部門と開発しました（図6、7）。



図6 開発した炭素繊維リアクター

この炭素繊維を硝化槽内に投入すると窒素の除去効果が高まるとともに、温室効果ガスの削減も図れますが、低コスト化が課題となっています。

炭素繊維リアクターを硝化槽に投入

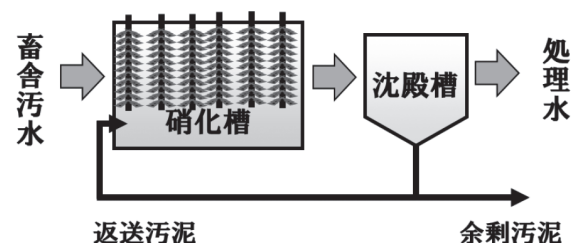


図7 炭素繊維による窒素除去促進法

5 硫黄脱窒法による窒素除去促進法

硫黄含有資材を用いた窒素除去技術です。循環式硝化脱窒法やメタノール添加法では、脱窒のために有機物を利用しますが、本技術では硫黄を用います。有機物を添加しないので水質悪化の懸念がなく、汚水中の窒素濃度の変動にも強いとされています（図8）。

本技術も農研機構畜産研究部門と実証試験を行い、高い窒素除去効果を確認しました。

実証試験では、既設浄化槽の沈殿槽を硫黄脱窒槽に改修し、硫黄含有資材を投入しましたが、新たな硫黄脱窒槽の導入も可能です。



図8 硫黄脱窒法

以上のように、窒素除去技術は以前から行われている方法に加え、新しい技術も開発されてきています。硝酸性窒素等が許容限度以下に下がらない場合、これらの方法を検討してみてもいいかもしれません。

○参考書

一般財団法人畜産環境整備機構2022. 家畜汚水処理施設設計・維持管理マニュアル

〔家保のページ〕

岡山家畜保健衛生所家畜保健衛生課の業績紹介

岡山家畜保健衛生所

今回は、令和5年度に取りまとめ、岡山県畜産関係業績発表会で報告した2演題について紹介します。

1 同一地域複数農場で同時期に発生した牛ボツリヌス症

牛ボツリヌス症は、ボツリヌス菌が産生する神経毒素により発症し、起立不能などの症状を示します。岡山県では県中央部を中心に、平成21年から令和4年にかけ、D型牛ボツリヌス症が22農場25件発生しています。令和5年4月、これまでに発生の無い管内地域の複数農場で牛ボツリヌス症の発生がありました。発生の概要及び農場の清浄化に向けた取り組みについて報告します。

(1) 発生の概要

発生のあった4戸5農場は半径5km圏内に位置していました。4月15日に後駆麻痺を主徴とする発症牛が1農場で確認されて以降、7日間の内に5農場で発生が相次ぎました。

農場間で飼養頭数、飼養形態、品種及び給与飼料に共通性はありませんでした。各農場では1日に1～3頭の発生が複数日にわたって続きました。

各農場で、発症牛の糞便に加え、環境材料（残飼、給与水、牛床、野鳥糞等）からも毒素遺伝子が検出されたことから、飼養環境が菌に汚染され、牛が経口的に感染し

た可能性（芽胞摂取型）が考えられました。

発生農場では、多数カラスの飛来を認め、同一地域で同時期にボツリヌス症が発生した原因として、カラスによるボツリヌス菌の伝播の関与が疑われました。

(2) 農場の清浄化に向けた取り組み

- ①2次感染防止対策…発症牛の隔離、死亡牛の速やかな処理、同居牛の移動自粛を依頼。
- ②ワクチンの全頭接種（全農場、本症ワクチンの接種歴がなかったため）
- ③環境中の菌量低減対策…牛舎の清掃・消毒を実施。
- ④カラス等野鳥の侵入防止措置…防鳥ネット、防鳥機の設置、野菜残渣の撤去等。
- ⑤注意喚起と情報共有…関係機関（家畜診療所、農協等）と情報共有を行い、連携して農家指導を実施。発生地域の牛飼養農家へパンフレット等を配布。

取り組みの結果、発生4戸に加え同地域でワクチン接種農場数の増加、カラス等の野鳥対策が進み、4月15日の初発から17日後の5月2日以降、同地域で新たな発生は認められていません。

(3) まとめ

今回の発生は、県の中央部からやや南西にずれた地域での連続発生で、過去の発生地域に隣接していました。病性鑑定課による野鳥のボツリヌス菌保有調査では、過去にボツリヌス症の発生の多い県中央部の野鳥糞便から毒素遺伝子が検出されています。今回の発生農場においても、農場内で採材された野鳥糞から毒素遺伝子が検出されており、菌の汚染拡大に野鳥の関与が推測されました。

今回、速やかな清浄化に向けた取り組み



によりボツリヌス症の発生は収束し、その後の発生は認められていません。ワクチン接種は発症抑制には効果的とされますが、感染と排菌は抑制しないとされます。よって、発生農場の清浄化と拡散防止のためには、ワクチン接種のみに頼らず、農場内の継続的な清掃・消毒とカラス等野鳥の侵入防止措置による飼養環境中の菌量低減が重要と考えます。

2 新規就農小規模養鶏農家に対する指導

(1) 新規就農状況

当所は44戸の家さん農場（令和5年2月1日時点）を管轄しています。そのうち、飼養羽数100羽未満の小規模農場は約3割の12戸あります。また、令和元年度から5年度にかけて計10戸が新たに就農しましたが、うち8戸が飼養羽数100羽未満の小規模農場でした。さらに、就農検討者からの問い合わせが近年増加しており、養鶏業未経験者への飼養衛生管理基準に基づく指導が重要となります。

管内の状況

★家さん飼養農場数 44戸
うち、飼養羽数100羽未満：12戸（27.3%）

★各年度新規就農農場数（うち飼養羽数100羽未満）

R1	R2	R3	R4	R5※
2	0	3	4	1
(2)	(0)	(2)	(3)	(1)

★新規就農希望者からの問い合わせ件数

R1	R2	R3	R4	R5※
1	0	5	6	0

※R5.12.27時点

(2) 指導内容

令和4年度に就農した農場の指導事例を紹介します。令和4年6月に畜主から当所へ鶏の飼養に関する問い合わせがありました。農場へ立入り、既存鶏舎での飼養状況および飼養衛生管理基準遵守状況を確認後、改善事項について指導しました。また、規模拡大のための鶏舎新設時に、飼養衛生管理基準に基づいた構造および作業動線となるよう以下の内容を指導しました。

①野生動物対策

鶏舎壁面は2cm角の金網またはネット等

で隙間なく覆う。飼料は蓋つきの容器等で保管し、野生動物との接触を防ぐ構造にする。

②専用の衣類・靴の使用

衛生管理区域内へ入る際には、専用の衣類と靴を使用する。さらに、鶏舎に入る際は、鶏舎専用の靴に交換する。

③各種ワクチンの啓発

家畜伝染病であるニューカッスル病や鶏伝染性気管支炎のワクチン接種をすすめる。

(3) 指導のポイント

①家畜衛生への意識付け

畜産未経験の畜主は、インターネット等より飼養方法および経営に関する知識を得ていることが多いですが、疾病に関する知識は少ない場合があります。そのため、初回の立入時に入念に飼養衛生管理基準の遵守状況を確認し、改善事項は一度に全て指摘することで、畜主の衛生意識向上へつなげます。

②ワクチン接種の啓発

いわゆる「自然養鶏」に取り組む農場では、自然の状態で飼養した鶏は健康であり、病原体が体内へ侵入しても感染しないと考える畜主が多いと感じました。ワクチン接種に難色を示す畜主に対しては、殺処分に至る疾病の存在や移動制限といった周辺農場への影響を説明することで、接種の了承を得られる場合が多かったです。

(4) まとめ

指導に苦慮する項目は農場ごとに異なりますが、まずは畜主と密にコミュニケーションをとり、畜主と家保との信頼関係を築くことが重要でした。

現在、初回の立入から漏れなく確認できるように、小規模農場への指導マニュアルを作成中です。経験の浅い鶏担当でも活用できることを目指しています。

○さいごに

引き続き、様々な疾病対策や継続性のある指導体制づくりに努め、農家経営の支援に尽力していきたいと考えています。

〔センムのヒトリゴト〕

一寸先は明るいかもしれない

一般社団法人岡山県畜産協会 中塚 陽二郎

大阪のおばちゃんの口癖である「〇〇らしいで、知らんけど」は笑えても、政治家の「知らなかった」には笑えない。学校での「いじめ」に対し、当局側の「いじめはなかった」にも納得がいかない。そもそも、国会は国民のために、学校は児童生徒のためにあるのではないのか。

本来の目的より組織の都合や手段が重視され、いつのまにか目的とは別の何かが取って代わる。青臭いことを言うなとお叱りを受けるかもしれないが、原点に戻って本来の意味を見つめ直すことも必要だろう。

ところで、先日、運転免許の更新手続きに行ってきた。ゴールドから青色へ20年ぶりに転落した。軽い加齢性黄斑変性があるので少し緊張したが、視力検査にも何とか合格し、約1時間の安全運転講習会を受けた。

岡山県では、横断歩道で車が止まらない歩行者妨害の違反が多いそうだ。信号機のない横断歩道では歩行者優先であり、横断を妨害してはいけないと。また、鉄板ネタの「かもしれない運転が大切」とのことであつた。

最近、インターネットで情報を入手することが多くなったが、その信憑性自体が怪しいものもあり、フェイクかもしれないと疑ったり、場合によっては事実を確認する必要もある。

世の中には、人を騙したり、陥れたりする人もいる。お金の話が出たら、まずは疑うことが重要だ。

日本人は、情報の信憑性を確認しないで信じる傾向にあり、騙されやすいと言われている。いい大人が、儲け話や国際ロマンス詐欺に引っ掛かり、大金を失うケースもよく耳にするご時世だ。

ある程度の年齢になったら、子供たちにも、世の中、良い人ばかりではなく、悪意

のある人も存在すること、最終的には自分で自分の身を守ることの大切さを教えることが必要だろう。

韓国や中国の時代劇では、陰謀を巡らせ人を蹴落とす場面が多く描かれている。日本の娯楽時代劇との違いは、歴然としている。

人を疑うことを教えることに抵抗があると言う人もいるが、犯罪や事件に巻き込まれてからでは遅いし、未然に回避できるものなら避けた方がよい。残念ながら、あまり呑気に構えていると、世界からみて平和ボケ日本に映ってしまうかもしれない。

外国では、地元の人でも近寄らない地区や時間帯もあり、行方不明になるケースも少なくないことを子供でも知っている。

罪を犯す者が悪くて自分は100%悪くないと言ってみても、事件に巻き込まれたら取り返しがつかないのである。

ドジャースの大谷翔平氏が巻き込まれている巨額詐欺事件においても、真偽の程は知る由もないが、結婚で人生順風満帆かと思いきや、一転、急転直下のピンチにさらされている。

一刻も早く、野球に専念できる環境で活躍してほしいものだ。

先が読めない混沌とした世の中になってきたが、「〇〇かもしれない」と日頃から準備を怠らないようにしたい。「地震で津波が来るかもしれない」「物価高騰や年金の目減りで老後の生活が苦しくなるかもしれない」「病気になって動けなくなるかもしれない」と、降りかかるリスクに対し、最悪を想定した対処が必要だ。反対に、「身近な人に嬉しい出来事が起きるかもしれない」「宝くじに高額当選するかもしれない」「素敵な出会いがあるかもしれない」とか、良い意味での「〇〇かもしれない」も期待したい。世の中、そんなに甘くない？「よう知らんけど」

岡山県畜産関係者名簿（令和6年4月1日現在）

部 署	職 名	氏 名	部 署	職 名	氏 名
農林水産部畜産課 FAX 086-224-2155 生産振興班 TEL 086-226-7429	課 長 副課長 総括参事（生産振興班長） 副参事 副参事 主 任 技 師 主 事	森分 哲彦 秋山 文男 池田 克美 内田 啓一 朝倉 麻由子 二部野 紗世 川本 梨絵 藤倉 奨	美作県民局 農畜産物生産課 TEL 0868-23-1310 FAX 0868-24-4962	農畜産物生産課長 総括副参事（畜産第一班長） 副参事 主 任 主 事 技 師	行森 美枝 三木 隆司 大谷 晴美 大津寄 由華 赤木 奈緒 郡司 拓実
衛生環境班 TEL 086-226-7431	総括参事（衛生環境班長） 副参事 副参事 副参事 副参事 主 任	田原 鈴子 山内 章江 植田 幹隆 出石 節子 岡本 雄太 金谷 真澄	TEL 0867-44-7564 FAX 0867-44-4754	総括副参事（畜産第二班長） 技 師 技 師 主 事	定森 淑子 藤原 希 横尾 夏未 金谷 治真
経営流通班 TEL 086-226-7428	総括参事（経営流通班長） 副参事 主 幹 主 幹 主 幹 技 師 主 事	塩田 鉄朗 佐野 通 松本 実 尾崎 尚樹 松本 吉生 江草 亮太 大杉 菜摘	岡山家畜保健衛生所 家畜保健衛生課 TEL 086-724-3880 FAX 086-724-3884	所 長 課 長 副参事 副参事 副参事 副参事 副参事 主 任 主 任 主 任 技 師 技 師	中村 浩三 金岡 孝和 中島 基之 田中 健嗣 佐藤 静子 平井 伸明 宮本 康子 澤井 紀子 宇高 成美 西川 早百合 馬場 誠 菱川 創太 村岡 咲季
(中国四国酪農大校派遣) TEL 0867-66-3651 FAX 0867-66-3652 総務課 教務課	副校長 課 長（副校長兼務） 主 任	串田 晴彦 三宅 正純	家畜病性鑑定課 TEL 086-724-3855 FAX 086-724-3856	課 長 専門研究員 専門研究員 専門研究員 研究員 技 師	別所 理恵 橋田 明彦 難波 かおり 梯 洋介 山口 葵 小花 綾乃
備前県民局 農畜産物生産課 TEL 086-233-9828 FAX 086-234-9064	農畜産物生産課長 総括副参事（畜産班長） 副参事 副参事 主 幹 主 任 技 師	牧野 賢 片岡 まどか 前田 勝彦 荒金 知宏 高取 和弘 綱島 優子 矢原 大雅	井笠家畜保健衛生所 TEL 0866-84-8221 FAX 0866-84-8233	所 長 次 長 副参事 副参事 副参事 副参事 主 幹 主 任 主 任 技 師 主 事 技 師 技 師	西川 真琴 横内 淳一郎 馬場 彩 いざさ 啓介 田中 静香 福島 成紀 錦織 拓美 三宅 歩 松長 清美 長尾 薫乃 和田 理来 和仁 佳史 国森 悠人
備中県民局 農畜産物生産課 TEL 086-434-7033 FAX 086-425-4921	参 与 農畜産物生産課長 総括副参事（畜産第一班長） 主 幹 主 幹 主 任 主 任 技 師 技 師	津寺 春良 青江 聡二郎 田辺 裕司 福田 新 立川 優子 吉田 由紀 田中 康裕 大坂 文美恵 渡辺 早瑛	高梁家畜保健衛生所 TEL 0866-22-2077 FAX 0866-22-7882	所 長 次 長 副参事 副参事 主 幹 主 幹 主 任 主 任 主 任	岡田 ひろみ 高見 剛 澤田 勝志 西 淳子 荒木 由季子 田中 成枝 兒子 友美 森 眞理子 入江 結唯
TEL 0867-72-9166 FAX 0867-72-9146	総括副参事（畜産第二班長） 主 任 技 師	高取 健治 西江 拓海 金田 実沙紀			

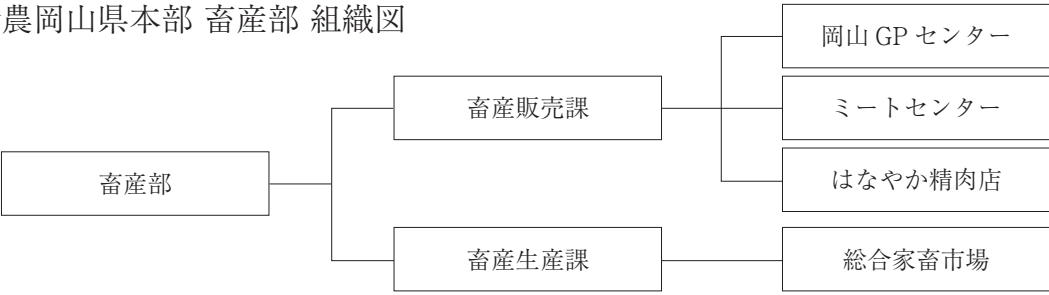
部 署	職 名	氏 名	部 署	職 名	氏 名
津山家畜保健衛生所 TEL 0868-29-0040 FAX 0868-29-3140 家畜衛生第一課	所 長	平田 祐介	改良技術研究室 (育種改良研究G) TEL 0867-27-3221・3396	室 長（特別研究員）	片岡 博行
	次 長	秦 守男		グループ長（専門研究員）	小田 亘
	家畜衛生第一課長	清水 淳也		副参事	高山 勲
	副参事	松馬 定子		副参事	岡本 元正
	副参事	黒岩 恵		副参事	福井 康勝
	副参事	笹尾 浩史		研究員	高取 真穂
	主 任	蛇島 武久		技 師	森清 邦彦
	主 任	光宗 仁美		技 師	鮫島 凱
	主 任	杉本 裕亮	(養豚研究G)	グループ長（専門研究員） 主 幹 主 任	佐々木 真也
	主 任	山崎 悠高			福島 敏道
	技 師	岡部 詩季			有富 勝仁
家畜衛生第二課	技 師	三柳 和志	(繁殖衛生研究G)	グループ長（専門研究員） 研究員 技 師 技 師	坂部 吉彦
	技 師	西本 光佑			西村 祐枝
	主 事	山崎 直人			宮浦 眞弘
	技 師	柴田 大輔			富谷 勇樹
	家畜衛生第二課長	(次長兼務)	飼養技術研究室 (生産性向上研究G) TEL 0867-27-3349	室 長 グループ長（専門研究員） 副参事 副参事 技 師 技 師	滝本 英二
	副参事	牧野 俊英			小林 宙
	副参事	萱原 佳美			大平 嘉秀
	副参事	中山 裕貴			杉山 卓
	副参事	横内 百合香			堀川 寛通
	主 幹	武縄 勝浩			葛原 大希
農林水産総合センター 畜産研究所 TEL 0867-27-3321 FAX 0867-27-3333 総務課 (畜産研究所駐在) 経営技術研究室 TEL 0867-27-3322 (企画開発G) (環境研究G)	技 師	岩本 侑希子	(飼養管理研究G)	グループ長（専門研究員） 専門研究員 副参事 副参事 技 師 主 任 主 任	森山 靖成
	技 師	岡田 慧			黒岩 力也
	技 師	森岡 亮裕			村田 和弘
	所 長	藤原 努			横山 明彦
	参 与	川尻 鉄也			佐々野 貴経
	副所長	斉藤 浩史			定賀 和夫
	副参事	宮阪 育代	県営食肉地方卸売市場 TEL 086-272-2138 FAX 086-273-7729	場 長 次 長	富田 康
	主 任	倉永 克彦			守屋 吉英
	室 長（特別企画専門員）	河原 貴裕	総務課	課 長（次長兼務） 副参事 副参事	則武 修
	グループ長（専門研究員）	川口 泰治			中田 勉
	技 師	宮野 友里	業務課	課 長 主 任 主 任 主 任 主 任	中村 克行
	主 事	能上 泰明			岡田 英樹
	主 事	森田 陽果莉			谷口 翔
	グループ長（専門研究員）	脇本 進行			羽柴 一久
	研究員	白石 誠			難波 浩
	技 師	米澤 瑤乃			妹尾 直樹

岡山県農業共済組合

令和6年4月1日

家 畜 部	部 長	江 草 佳 彦
家 畜 課 TEL 086-230-5575 FAX 086-230-3202	課 長	枯 木 昌 美
	主 事	小 橋 陸 哉
	主 事	鴨 井 敏 則
	臨 時	朝 倉 昇 子
生 産 獣 医 療 支 援 セ ン タ ー TEL 0867-22-1500 FAX 0867-22-1194	診 療 所 長	谷 拓 海
	主 幹	西 川 達 也
	技 師	八 田 愛 弥
	技 師	田 中 陽 生
	技 師	舩 越 史 佳
	技 師	森 本 高 輝
	嘱 託	山 形 真 由
備 中 家 畜 診 療 所 TEL 0865-64-4141 FAX 0865-64-2926	診 療 所 長	水 戸 康 明
	主 任	篠 原 健 志
	主 任	宇 野 進
	技 師	前 原 健 成
	臨 時	川 上 智 美
	臨 時	齋 藤 聡 子
備 中 家 畜 診 療 所 備 北 出 張 所 TEL 0866-22-2211 FAX 0866-22-0358	出 張 所 長	根 木 慶 彦
	技 師	柴 田 薫
	技 師	新 里 実 子
	技 師	正 木 丈 博
	技 師	畦 崎 正 典
	臨 時	中 笹 良 恵
美 作 家 畜 診 療 所 TEL 0868-54-5081 FAX 0868-54-2271	診 療 所 長	椿 修
	主 任	神 田 遥 子
	技 師	越 本 時 貴
	技 師	守 屋 ひ か 理
	技 師	宮 本 翔 也
	技 師	赤 松 優 美
	技 師	伊 藤 友
	技 師	堀 間 大 我
	技 師	豊 島 麻 美 子
	技 師	影 山 毅
	技 師	西 山 篤
	技 師	大 谷 香 里
	臨 時	小 林 直 子
	臨 時	福 田 佳 子
美 作 家 畜 診 療 所 蒜 山 出 張 所 TEL 0867-66-2517 FAX 0867-66-4626	出 張 所 長	大 屋 卓 志
	主 任	八 木 梓
	技 師	後 藤 友 樹
	技 師	齋 喜 宣 孝
	技 師	金 盛 隆 志
	技 師	犬 間 一 郎
	臨 時	宮 本 美 佐 枝

全農岡山県本部 畜産部 組織図

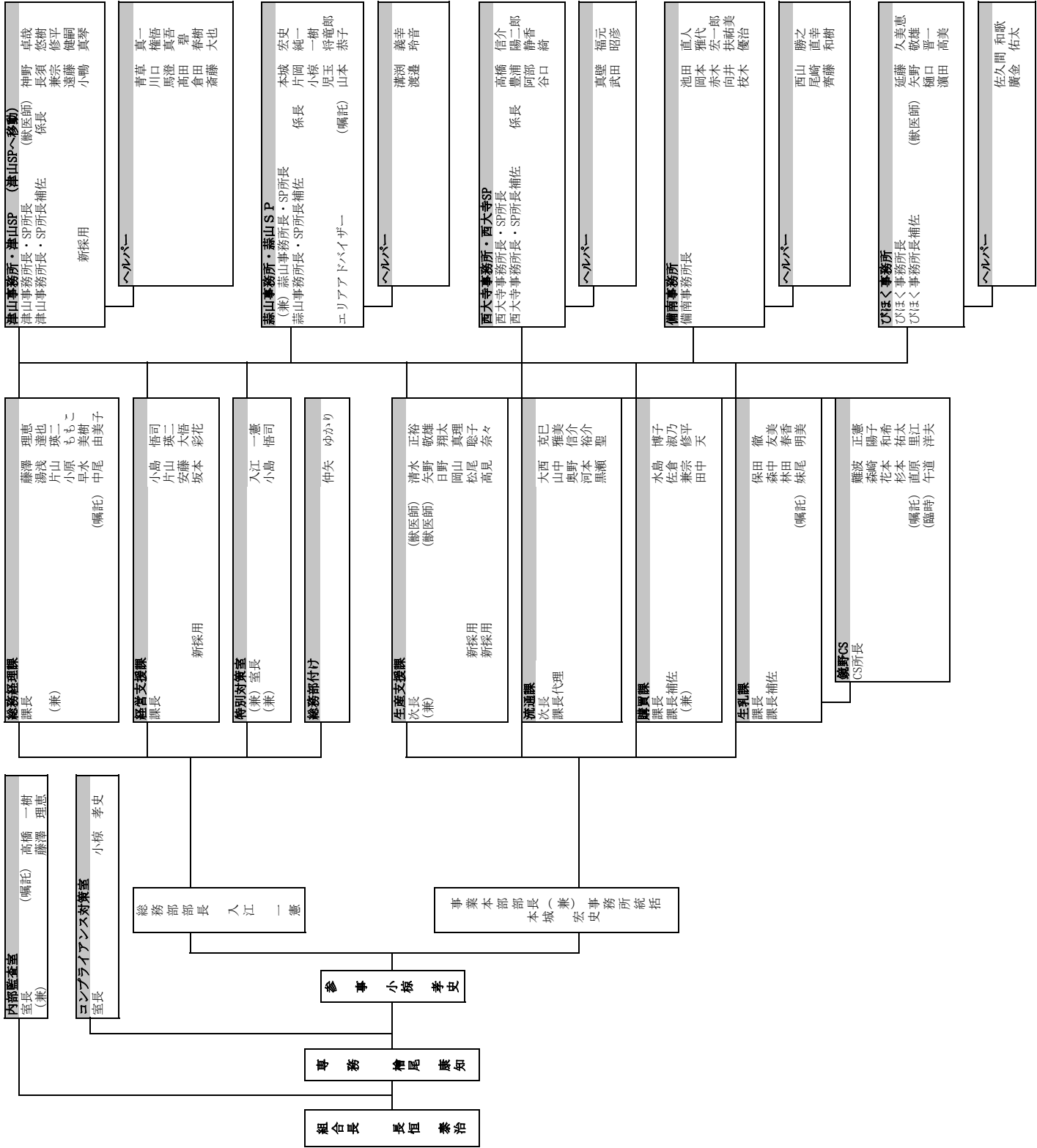


全農岡山県本部 畜産部 人事配置

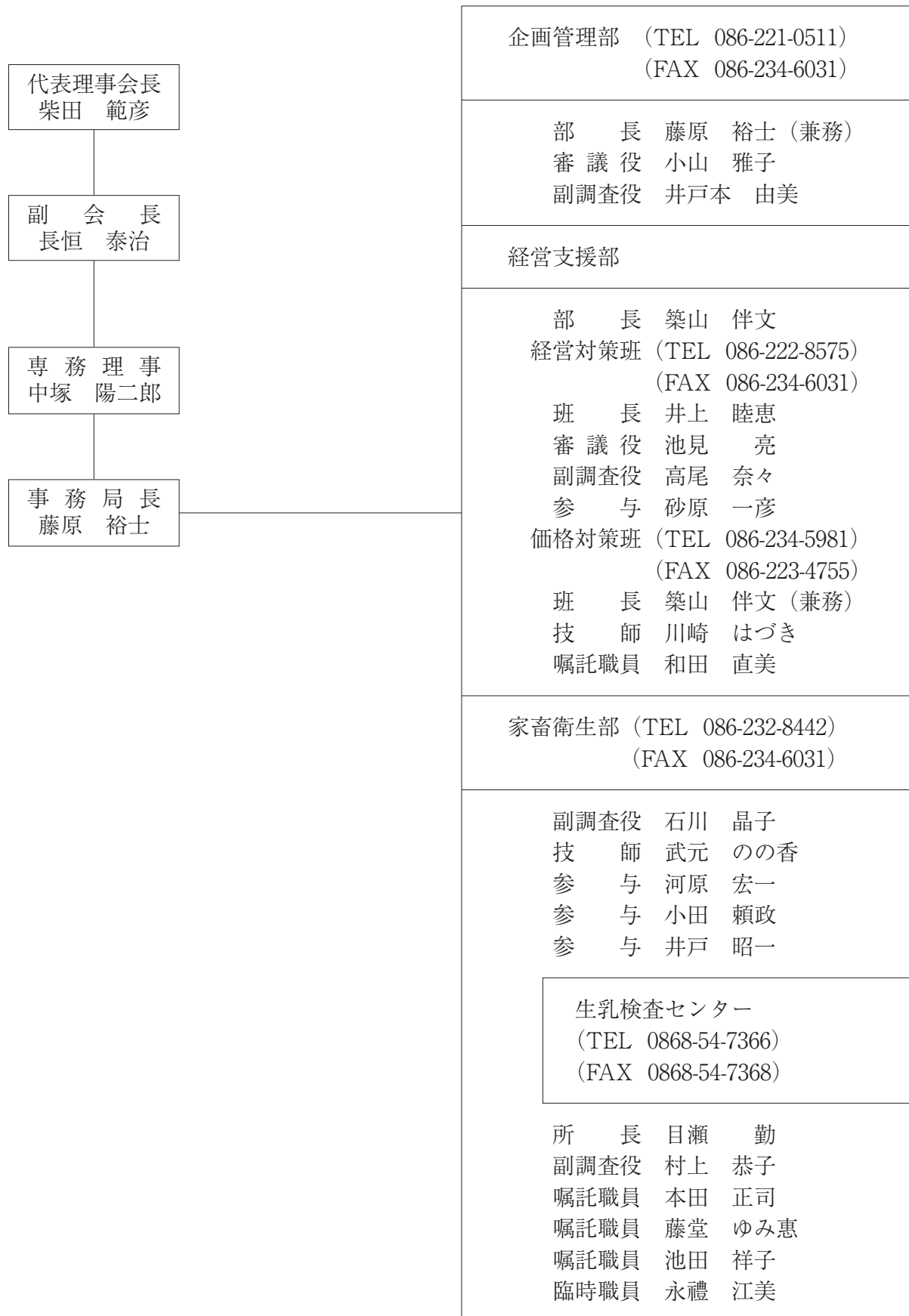
令和6年4月1日現在

部・課	職 名	氏 名	備 考
畜産部	部 長	山 本 高 宏	
	次 長	藤 原 哲	
	次 長	堀 田 文 博	
畜産販売課 (086-296-5033) (086-280-5024)	課 長	暮地岩 有 斗	
	専任課長	西 山 明 伸	
		藤 原 潤 太	兼 務
		阿 食 越 正	
		松 尾 舞	
		成 松 真奈美	
		柿 本 真 奈	
		松 本 英 梨	
		岡 崎 友 哉	
		難 波 智 明	
		原 千 秋	
		太 田 裕 之	
岡山 GP センター (086-293-8688)	センター長	藤 原 潤 太	
ミートセンター (086-296-5088)	センター長	藤 原 哲	兼 務
		木 下 貴 博	
		中 村 倫 政	兼 務
		川 上 圭 太	
		井 上 清 志	
はなやか精肉店 (086-222-2560)	店 長	堀 田 文 博	兼 務
		中 村 倫 政	
		岸 田 健 介	
畜産生産課 (086-280-5608)	課 長	西 野 芳 仁	
		小 野 皆 人	
		妹 尾 侑 斗	
		中 本 航 輝	
		小 椋 一 広	
		植 田 淑 江	
		難 波 智 明	兼 務
		道 繁 要	
総合家畜市場 (0867-42-5333)	場 長	中 村 健	
		小 野 皆 人	兼 務
		小 椋 一 広	兼 務
		植 田 淑 江	兼 務

おかやま酪農業協同組合機構図：令和6年4月1日付



令和6年度 一般社団法人岡山県畜産協会組織図
(令和6年4月1日)



岡山県畜産関係各種協議会名簿一覧

(令和6年4月1日現在)

名 称	会 長	事 務 局
岡山県家畜人工授精師協会	狩 谷 和 宏	岡山県畜産課
岡山県酪農乳業協会	長 恒 泰 治	おかやま酪農業協同組合
岡山県産牛肉銘柄推進協議会	藤 原 雅 人	全農岡山県本部畜産部
岡山県産豚肉消費促進協議会	藤 原 雅 人	全農岡山県本部畜産部
岡山県養鶏協会	安 原 健 二	烏城養鶏農業協同組合
岡山県ふ卵協会	山 上 祐 一 郎	烏城養鶏農業協同組合
岡山県装削蹄師会	平 井 計 行	岡山県装削蹄師会事務局
岡山県養蜂組合連合会	鈴 木 康 正	鈴木養蜂場
岡山県和牛子牛資質向上対策協議会	山 本 高 宏	岡山県畜産協会
岡山県馬事畜産振興協議会	柴 田 範 彦	岡山県畜産協会
岡山県養豚振興協会	菱 川 大 二 郎	岡山県畜産協会
岡山県コントラクター協議会	石 原 聖 康	岡山県畜産協会



高知競馬開催案内(2024)

地方競馬の収益金の一部は国内の畜産振興に役立てられています。

5月						6月											
開催日			備 考			開催日			備 考			開催日			備 考		
1	水			17	金			1	土	○	ナイター	17	月				
2	木			18	土	○	ナイター	2	日	○	ナイター	18	火				
3	金			19	日	○	ナイター	3	月			19	水				
4	土			20	月			4	火			20	木				
5	日	○	ナイター	21	火			5	水			21	金				
6	月	○	ナイター	22	水			6	木			22	土	○	ナイター		
7	火			23	木			7	金			23	日	○	ナイター		
8	水			24	金			8	土	○	ナイター	24	月				
9	木			25	土	○	ナイター	9	日	○	ナイター	25	火				
10	金			26	日	○	ナイター	10	月			26	水				
11	土	○	ナイター	27	月			11	火			27	木				
12	日	○	ナイター	28	火			12	水			28	金				
13	月			29	水			13	木			29	土	○	ナイター		
14	火			30	木			14	金			30	日	○	ナイター		
15	水			31	金			15	土	○	ナイター						
16	木			ナイター(14:45~20:50)				16	日	○	ナイター	ナイター(14:45~20:50)					

ホットニュース

【岡山県畜産協会新人職員紹介】

家畜衛生部に配属されました、武元のの香と申します。岡山県出身で、岡山大学大学院で大規模経営地帯の農地利用に関する研究に取り組みました。学生時代は演劇部に所属し、裏方として演者を支えることに力を入れていました。趣味は映画鑑賞で、週末には様々な作品を楽しんでいます。私は協調性を持つことを大切にしています。この性格を生かし、周囲の方々と協力しながら業務に取り組んでいきたいです。



あとがき

昨年から登山を始めた。週末はいつも山の頂にいるほど没頭している。登山を魅力的にしてくれる要素の一つに様々な出会いがある。先日一人の高齢男性と話す機会があり、亡き妻の遺影を携えて山歩きされている話を聞いた。普段街中で無数の人々とすれ違うが、会話することは滅多にない。しかし、山では会話出来るハードルが下がり、その人の人生の一端を知ることが出来る。人それぞれが色々な想いを背負って山を歩く「人間交差点」がそこにある。昨今、とりわけコロナ以降、会話不足による意思疎通の齟齬を端々で感じる。握手をすることもほとんど無くなった。握手まですることはないかもしれないが、お互いの内面を知り、共感する部分を探すためには、面と向かって話し合うことがいかに重要かを改めて感じている。(H.F)

岡山畜産便り 4月号(春季号)

第75巻 第3号(通巻710号)
令和6年4月26日発行
定価250円(消費税・送料含)

発行人 柴田範彦 編集人 藤原裕士
発行所 一般社団法人 岡山県畜産協会
〒700-0826 岡山市北区磨屋町9-18 岡山県農業会館5階
TEL 086-221-0511 FAX 086-234-6031
印刷所 ノーイン株式会社



メディパルグループ



動物の健康は 人の健康につながる

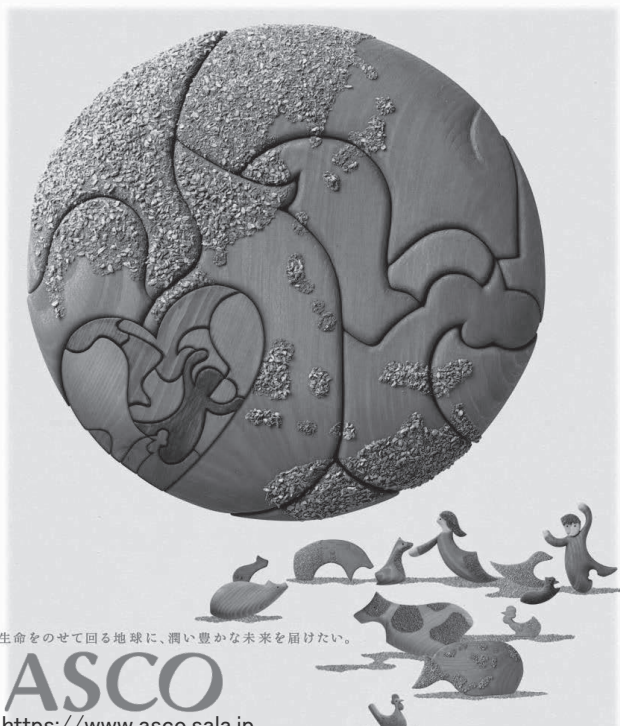
- 動物用医薬品販売の全国ネットワークを駆使し、あらゆる動物の健康維持に貢献します。
- 安全な畜水産物の生産をサポートし、獣医療の発展と食の安全・安心に貢献します。

MPアグロ株式会社

本社 〒061-1274 北海道北広島市大曲工業団地6丁目2番地13
TEL 011(376)3860 FAX 011(376)2600

岡山支店 〒709-2122 岡山市北区御津吉尾1-1 TEL 086-724-4880 FAX 086-724-4889
AHSC西日本 〒702-8032 岡山市南区福富中2丁目6-18 TEL 086-902-2200 FAX 086-264-2500
御津物流センター 〒709-2122 岡山市北区御津吉尾1-1 TEL 086-724-4816 FAX 086-724-4882
東京本部・札幌・旭川・函館・帯広・北見・釧路・青森・秋田・盛岡・山形・仙台・東京・北関東
大阪第一・大阪第二・兵庫・広島・山口・鳥取・島根・高松・徳島・松山・宇和島
福岡オフィス・福岡第一・福岡第二・熊本・宮崎・鹿児島・鹿屋
札幌物流センター・帯広物流センター・盛岡物流センター・関東物流センター

人と動物の健やかな共生環境づくりに貢献します



生命をのせて回る地球に、潤い豊かな未来を届けたい。

ASCO
<https://www.asco.sala.jp>

本社

〒441-8021
愛知県豊橋市白河町100番地
TEL 0532-34-3821 FAX 0532-33-3611

東京本社

〒103-0027
東京都中央区日本橋1丁目16番地3号
日本橋木村ビル7階
TEL 03-6225-5790 FAX 03-6225-5791

営業所

- ・北海道支店
札幌
- ・東日本支店
前橋、松本、旭、茨城、栃木、東京
大宮、宮城、福島
- ・中日本支店
豊橋、安城、浜松、沼津、岐阜、名古屋
- ・西日本支店
広島、山口、米子、岡山、大阪、京都